

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300255		
法人名	医療生活協同組合		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	福島県郡山市島二丁目23番17号		
自己評価作成日	2019年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	2019年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が自分らしい生き方が出来る様ひとり一人に寄り添う介護を支援している。  
 ・住み慣れた地域で、今まで通り暮らせるために地域づくりをすすめている。  
 ・誰もが生きがいを持って、楽しく過ごせるように支援している。  
 ・健やかに安心して暮らせるように、協力病院との連携を図り、必要に応じて通院の支援を行っている  
 ・利用者様本人の要望やご家族様の要望にその都度応えている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族から寄贈された人形などを飾り、季節を感じられるよう制作物も工夫している。事業所が主体となって地域の人が誰でも集まれるカフェを開き、地域住民や利用者の家族同士が交流できる場を作っている。医師による住診、訪問看護、訪問歯科など医療と密接な関係が築けており、利用者一人ひとりの健康管理ができています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について職員と定期的に話し合い全員で共有し実施 共有・継続している	管理者・職員が一緒になってわかりやすい表現で作り上げた理念にそって実践している。職場会議で利用者の状況を確認しながら話し合い、理念の共有や統一をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	芋煮会やバザーを行い地域の方々に多く参加していただき、施設の利用者の方々と積極的に交流してもらっている	町内会に加入し、廃品回収などで地域に貢献している。事業所主催の催しやカフェで地域の人と交流している。老人会のクラブが来てくれることもある。地域交流を積極的に行うことで関係を築く努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より相談・見学を常時受け付け施設の特徴を説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状を説明し地域の方、高齢者あんしんセンターの職員、家族 相談員の参加もあり 意見を頂いてサービスの向上に活かしている	二か所の地域包括支援センターの職員が参加しており事業所はより多くの知見を得ている。問題になった事例で話し合いをしたり、地域の状況を教えてもらったり様々な意見交換をしている。	運営推進会議へ利用者家族の参加協力が得られるよう工夫し、より多くの意見交換が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・何かあったときはすぐに市町村に連絡しアドバイスを受けています。 ・市の相談員さんが毎月2回訪問し「きづきノート」を活用しコミュニケーションをとっています。 ・季節の行事などに相談員さんに声を掛け参加していただいている。	地域の人々との交流を目的にカフェを毎月開催している、市の地域推進課の職員との連携が図られている。市の介護相談員とのやりとりで事業所の実情も伝えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職場会議内で学習会をひらき正しい知識を職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている	マニュアルを作成し対応している。事業所内での学習のほか外部研修で学んでいる。外部研修後は伝達会を開き知識を共有している。日頃より利用者一人ひとりの行動を把握し、職員が細やかに対応することで利用者が不自由にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様 職場会議の学習会などで学び、日頃より職員間で正しい知識のもとで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行う学習会の中で年1回以上権利擁護についての学習会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の場合は利用者様ご家族に十分説明を行い理解、納得を図れるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日頃より利用者様やご家族の意見を聞き運営に反映させている ・意見箱を設置し利用者様やご家族の意見を入れてもらい運営に反映させている	毎月の請求書とともに事業所内の様子が分かるニュースや利用者の写真、ご意見用紙を送付している。事業所やカフェに家族が来た時に職員が要望を聞き取っている。家族が気兼ねなく話せる関係を日頃から築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や朝の打ち合わせ その他ミーティングの場を持ち日常業務の中で意見を聞き反映させている 又個人面談等で意見等を聞く機会を設けている	家族が投函する意見箱に職員の意見も入れてもらっている。職場会議や年1回の個人面談時に一人ひとりの要望や意見を聞き運営に反映させている。管理者は職員からの意見や要望を受け止めるようにして、何でも話しやすい関係を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の勤務実績や状況を把握し処遇改善を図っている。 ・随時職員との面談の機会を作り意欲的に仕事ができるよう努めている。 ・労働組合と共に労働条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修に参加できるよう声掛けをし積極的に進めている ・経験年数に合った教育を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の介護事業部内で事例検討会に参加し日頃の活動を報告し他事業所の職員から意見を聞き日常のケアに反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から話しやすい環境づくりに心掛けご本人が不安に思っていることや要望などを聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の要望や不安に思っていることを聞き取るよう努めながら話をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族とその都度話し合いをする機会を設け ご本人やご家族にあったサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることは一緒に行ったり、見守りをするなどで介護する 介護されているという立場を意識しないで過ごせるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の積極的な面会への声掛け、ご家族も一緒に参加できる行事の取り組みを通してご本人とご家族の絆を大切に深められるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの関係が崩れないよう近所を散歩したり外食をするなどの支援を行っている	身体機能の低下により外出が難しくなり、現在は地域の人が事業所に来てくれることが多くなっている。家族には入居時に誰でも面会が可能であることを伝えている。利用者の知人とのつながりを作ってくれたことで面会できた例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し仲の良い関係 支えあう関係づくりの支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族とも交流を継続している オレンジカフェへの参加を声掛けし関係性の継続に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や日常生活から本人の行いたいことや本人の望む生活を伺い本人の希望・要望の把握に努め、職員間で共有し家族、関係者の協力を得て思いをくみ取るよう本人本位に取り組んでいる	利用者の思いは、毎日のさりげない話しのなかで聞いたり、入浴中の会話の中で把握するようにしている。得られた情報はミーティングなどで職員間で共有しケアに活かせるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時やご家族が来所された時など今までの生活史や馴染みの暮らしなどを伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングや申し送り時などでディスカッションを密に行い、一人ひとり過ごし方や有する力を評価、把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向やご家族の希望を確認しプランニングを行っている。定期的に見直し、状況に変化があったときはその都度介護計画を見直している。	利用者の担当職員から毎日の状況を確認している。利用者の思いや家族の要望を聞き取り、利用者が楽しく過ごせるための介護計画を作成している。主治医や訪問看護師からの医療的な意見を参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを意識して記録を行っている。些細な気づきを記入することで計画の見直しに利用できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの希望やニーズがあった場合は、そのニーズに対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加を通して交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護の職員や主治医との連携をとりながら本人家族の希望に対応している	入居時にかかりつけ医と協力医療機関での受診の希望を家族から聞き取っている。受診は家族と職員が付き添い、家族は主治医から直接説明を受けている。日頃の状況を記した生活記録で主治医へ情報提供し、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回は訪問看護師に利用者の状態を報告、相談をしながら指示を受けている。常に訪問看護師と連携が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院関係者に施設での状況を提供したり、退院に際しての受け入れについて意見交換し利用者が安心して入院、療養をし退院後は施設にて安心して生活ができるよう医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り、重度化に関する指針を家族などに説明し事前の意思確認を行って同意書をいただいている。又、看取りを希望される場合は「終末ケアについての同意書及び確認書」をいただいている	入居時に重度化や終末期についての希望を聞き取っている。希望すれば療養型病棟への転院も可能となっている。看取りについて施設長が職員へ医学的に説明し、心構えができるように対応している。看取った後も職員のケアを十分にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に学習会を行いAED 心臓マッサージなどの緊急時対応を学んで訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体の訓練を行っている。緊急連絡網や夜間想定訓練などを実施し各職員の防災意識を高めている。又、地域住民へ回覧板等でお知らせし協力を要請している	夜間の避難訓練では地域住民の協力を得て実施している。自動通報装置で消防署へ連絡される仕組みになっており、管理会社からの指導を受けながら通報訓練や消火器の使い方を確認している。	職員の中で通報や誘導の担当を事前に決めるなど、日頃からの防災意識を高めてより速やかな避難ができるよう対策を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。入浴時や排泄時等常に羞恥心を考ええている	利用者の思いを推し量り、さりげない声掛けや、恥ずかしい思いをしない対応に気を配っている。利用者への接し方について日頃から職員間でプライバシーを損ねない声掛けや対応に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時、その時の利用者本人の気持ちを大切に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握しその人の思いや希望に沿った生活を過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容などを行い、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。更衣時は本人と一緒に衣類を選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の誕生日にはご本人の希望する者を1品加えたり、行事食、外食レクなど利用者の好みを伺いそれに沿ったものにしていく	行事食やおやつなど、季節を感じられるものにしていく。おやつ作りでは、一緒に作業することが難しい利用者でも近くで見たり匂いをかいだり、作られる過程を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その人に合った食事量、食事形態を考慮して食事の提供を行い、バランスが崩れないようにしている。 ・ご家族よりカルシウムの摂取が足りないのではないかと指摘をうけ毎日ヨーグルトを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の清潔の保持に努めている。又個別に訪問歯科及び歯科衛生士による定期訪問を利用し義歯の調節、口腔衛生の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを分析しできるだけトイレで排泄していただける様な介助をしている	日頃から利用者一人ひとりの排泄のシグナル、パターンを把握し対応しており、職員の気づきが高まっている。情報はミーティングで共有し、ケアに活かしている。オムツやパットは利用者に合わせてものを選び、自立に向けた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日ヨーグルトを提供し日頃から自然な排便を促せるようにしている。 ・医師や訪問看護師との連携を密にし早期対応ができるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・一人ひとりの希望の湯量、温度、時間を考慮しながら入浴介助を行っている。 ・ご本人の希望があるときにはできるだけ入っていただけるよう対応している	入浴を楽しめるように季節に合わせてゆず湯にしたり、入浴中に利用者からの話を引き出すようにしている。入浴を嫌がる利用者には声かけの工夫や、タイミングを見計らう、音楽をかけて楽しく誘導するなど、気持ちよく入浴できる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調を考慮しながら休息や安眠の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬に関しては個人ファイルにある薬の説明書をいつでも確認できる状態にしている ・看護師と連携を取りながら服薬を支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの能力や意欲を考慮し創作活動やレクリエーションを取り入れている。 ・洗濯物をたたんでいただいたり、職員と一緒に軽作業を手伝っていただいたりして生活の中で役割を持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出に出かけたり散歩をしたりする機会を設けている、又ご家族様に協力を得て外出の支援を行っている	近くの公園へ散歩に出かけている。ドライブだけの外出でも外を眺め気分転換を図る機会を作っている。家族の協力を得て外出ができており、家族も利用者と一緒に食事できたことを喜んでいる。職員が下見し外出先の把握を行うこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者はいないが買い物の支援などできる支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様への電話のやり取りの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者様が居心地の良い環境づくりに心掛けている ・電気の明るさや温度調節をはかり安心して過ごせるようにしている。又装飾品等で季節感を味わえるようにしている	オゾン脱臭で室内の空気清浄に気を配っている。室内の明るさは利用者一人ひとりに合わせて調節している。テーブルや手すりなど共有する場所は拭いて清潔が保たれるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士でゆっくり過ごしたり時には一人で過ごす時間をつくったり、座る位置を工夫して対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	利用者の馴染みのものを部屋に持参していただいたり本人が好むレイアウトを本人、ご家族様と共に工夫し環境の整備に努めている	ドレッサーやテレビなど自宅で使っていたものを持参してもらい、居心地よい部屋作りをしている。身体状況に合わせてベッド配置などを工夫し、使いやすいや安全面に配慮した部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや浴室に目印をつけただけ一人で行けるように工夫している ・居室もご本人やご家族様と相談しながらその人にあった目印をつけたりすることでご自分の部屋へ自由に行き来できるようにしている		